

# 『認知症ケアの倫理 ethics of dementia care』

箕岡真子／著、ワールドプランニング、2010



## 目次 Contents

---

はしがき

『認知症ケアの倫理』の刊行によせて

第1章 『認知症ケアの倫理』とは

1. 認知症を生きるということ
2. 『認知症ケアの倫理』が目指すもの
  - 1) 実践に基づき『認知症ケアの倫理』を創り発展させる
  - 2) 『認知症ケアの倫理』は認知症に伴う偏見・蔑視を取り除く
  - 3) 『認知症ケアの倫理』は超学際的・多職種協働的アプローチ

第2章 生命倫理（バイオエシックス）の基礎知識

1. 倫理的ジレンマと倫理的気づき
2. 倫理的ジレンマへのアプローチ方法
3. 倫理的ジレンマの解決策
4. 医学的事実と倫理的価値判断
5. 倫理4原則
  - 1) 自律尊重原則
  - 2) 善行原則
  - 3) 無危害原則
  - 4) 公正原則

6. 倫理4原則の対立
  - 1) 倫理4原則の優先順位はケースごと異なる
  - 2) 倫理4原則同士が対立する
7. 徳倫理：行為者の性格のよさ
  - 1) 徳倫理 (virtue ethics) とは
  - 2) “徳”の種類
8. 介護専門職と利用者（患者）との関係
  - 1) 信認（信託）関係
  - 2) ビジネスモデルとの違い
  - 3) “徳の倫理”との関係

### 第3章 告知

1. 「告知」に関する倫理的基礎知識
  - 1) 意思能力
  - 2) インフォームドコンセント
2. 『告知』することの意義
  - 1) 「告知」をすることのメリット
  - 2) 「告知」をすることのデメリット
3. 告知の方法
  - 1) 心理的配慮
  - 2) タイミング
  - 3) アルツハイマー病における告知の内容
  - 4) だれに対して告知を実施するのか
4. 告知後の対応
  - 1) 「告知すること」には責任が伴う
  - 2) 告知後の心理的ケア・カウンセリング
  - 3) 告知後のケアプランの作成

### 第4章 家族介護者の役割とその意義

1. 家族介護者の役割
  - 1) 認知症ケアの実践者としての役割
  - 2) 認知症本人の代弁者としての役割
  - 3) 継続して家族としての愛情を注ぐ役割
  - 4) QOLs (=関係者全員の QOL)
  - 5) 家族介護者の役割と意思能力の変化
2. 家族介護者の限界
  - 1) 重労働と疲弊
  - 2) 行動コントロール（管理）の倫理
  - 3) 専門家と家族の違い
  - 4) ‘本人の思い’と‘家族の思い’の違い

3. 家族介護者を支援するために
  - 1) 施設入所の問題
  - 2) 専門職の役割
  - 3) 社会（政策）の役割

## 第5章 認知症の人の QOL

1. QOL の概念
  - 1) “Life”の多義性
  - 2) QOL は“質的”評価をするものである
  - 3) QOL は主観的要素と客観的要素の両者を含む
2. 認知症の人の QOL
  - 1) 認知症の進行に伴って主観的要素について声を上げることができなくなる
  - 2) QOL を構成する要素
  - 3) 認知症の人が感じる‘よい QOL（＝しあわせ）’とは
3. QOL の主観的側面
4. QOL の評価
5. QOL の変化
  - 1) QOL は変化するものである
  - 2) QOL の変化に応じて医療・ケアのゴールを変える
  - 3) QOL を改善・維持するために
6. QOLs（quality of lives）
7. QWL（quality of working life）“生き生きとして労働する”
8. 認知症終末期の QOL
  - 1) 終末期の QOL
  - 2) 2つの QOL：「生の質」と「命の量」の道徳的違いの重要性
  - 3) 終末期においては‘快適さ’と‘周囲との関係性（交流）’が QOL を高める

## 第6章 尊厳とパーソン

1. 人間の尊厳
  - 1) 尊厳という言葉の使われ方
  - 2) 尊厳の定義
  - 3) Knock down argument
2. 人格とパーソン
  - 1) パーソン論
  - 2) パーソン論に対する反論